

謹んで新年の

ご挨拶を

申し上げます



青森市長
小野寺 晃彦

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、心新たに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。新型コロナウイルス感染症の影響も3年に及ぶとともに、ロシアのウクライナ侵攻に端を発するエネルギー・食料品価格などの物価高騰等により、地域経済は厳しい状況が続いています。

地域経済の回復に向けて、広く市民の生活を支援する対策を実施してまいります。本年は、コロナ禍の中でも青森県、青森商工会議所、JR東日本をはじめ、官民連携により市内外の投資を呼び込む努力を続けてきた街づくりの種が次々と芽吹く年となります。

3月には、バス・タクシー乗り場や駐車場・駐輪場、バリアフリートイレ等を備えた青森駅西口駅前広場が完成するとともに、新町一丁目地区では老舗百貨店が建て替えられ、マルシェ・ファッション・メディカルなどの機能や、24台の駐車場を併設する複合施設「THREE」が登場します。



函館市長
工藤 壽樹



新年あけましておめでとうございます。青森市民の皆様におかれましては、晴れやかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

青森市と函館市がツインシティの盟約を締結してから今年で34年目となり、これまで、経済、観光、文化、スポーツなど幅広い分野にわたり、官民ともに積極的な交流を継続してまいりました。

新型コロナウイルス感染症が拡大して以降、両市の交流事業も縮小や中止・延

期となっておりましたが、市民生活や事業活動など様々な面で徐々に落ち着きを取り戻しつつあると感じており、今後、多様な分野で活発な交流が実施されることを大いに期待しております。

また、青函の新たな魅力として加わった「北海道・北東北の縄文遺跡群」につきましましては、両市の歴史や景観・文化・食などとともに、多様な魅力を発信する絶好の機会ですので、これからは両市の魅力を国内外に発信することで、青函地域を中心とした東北・道南における周遊

観光の強化に取り組んでまいりたいと考えております。

今後におきましても、青森市と函館市が共に手を携えて、積極的な交流の推進に取り組んでいくとともに、両地域の活性化と一体的な発展を図ってまいりたいと考えておりますので、青森市民の皆様におかれましては、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして、素晴らしい年となりますよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

青森市議会議長
奈良岡 隆



明けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、清々しく新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、日頃から市議会の活動に対して温かいご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、現在、本市をはじめとする地方においては、人口減少・少子高齢化の進展や地域コミュニティの弱体化などの多くの課題に対応したまちづくりが進められています。

加えて、新型コロナウイルス感染症の

感染拡大が始まって以降、飲食・宿泊業を中心に、経済活動への影響が続いてきた一方、昨年は、各種イベントの再開や国の全国旅行支援の実施等により、旅行者の増加などの明るい兆しが見え始めてきたと感じています。

本市においても、感染対策を徹底して開催された県内初の公認フルマラソン「あもり桜マラソン」や、3年ぶりとなる青森ねぶた祭の開催など、感染拡大の防止と経済社会活動の維持との両立に向けた取り組みが進められています。

このような中、本市議会では、昨年11

月から新たに選ばれた32人の議員による議会活動がスタートしたところであります。今後4年間、地方自治の二元代表制の一翼を担う議事機関として、また、本市を取り巻く課題に対応するための優れた施策を生み出す言論の府として、公正・公平で民主的な議会運営により、市政の発展を図っていく考えです。

結びに、今年一年が市民の皆様にとりまして、健康で明るく幸せな年となりますよう、心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。